

黄色粘着板を利用したタバココナジラミ類防除技術の開発

タバココナジラミ類は、多種類の野菜・花きを加害する世界的な重要害虫です。本種には、複数のバイオタイプが存在し、その中でバイオタイプQは、我が国では平成16年に広島県で初めて発生が確認され、その後、急速に地理的分布を拡大しています。京都府では平成18年に発生を確認し、トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するだけでなく、これまでコナジラミ類による被害がそれほど問題にならなかったトウガラシ類で多発しています。バイオタイプQに対して有効な化学農薬の種類は極めて少なく、化学農薬に頼らない防除技術の開発が急務となっています。タバココナジラミ類成虫は、黄色に誘引されることから、黄色粘着板を利用した防除技術の確立に向けた試験を行っています。



黄色粘着板を水平に設置した試験ハウス